

につぼん丸こんぴらさんクルーズ乗船記

個人会員 岡島 純

1月17日名古屋発着こんぴらさんクルーズに乗船してきた。当初神戸発着につぼん丸30周年記念クルーズに申し込んだが、キャンセル待ちの状態であった。年末に名古屋発着の本クルーズに30周年記念イベントが追加されると案内があり、申し込み変更した。

コースは名古屋発16時翌日坂出12時着でこんぴらさん参拝し、翌日名古屋16時に戻ってくる予定であったが、新型コロナウイルスのオミクロン型感染拡大に伴い坂出市管轄の保健所より入港の受入を断りたい旨の通知があり、高松に入港先が出發1週間前に変更となり、高松11時着で出港が1時間遅く20時となった。

本稿は既に「コロナ禍のにつぼん丸クルーズ」で予約後から乗船中の新型コロナウイルス感染防止対策に関して記したので、この件に関して一部割愛する。今までは出港2時間ほど前に港に集合であったが、PCR検査を乗船当日に受検するため、5時間前に指定されたホテルに集合することになっていた。一旦受検するとホテルから外に出ることができないので、事前案内されたとおりに本を持ってきたが昼食を挟んでマジックショーとエクササイズが行われ、読む暇がなかった。しかし、観覧参加希望したくない乗客には別室を用意してもらっていたら良かったかもしれません。ホテル集合時刻が客室タイプ別になっていたが、PCR検査順に座席が決められるためホテルから港までのバス乗車（同時に乗船）順が客室タイプ関係なしであった。航空機の搭乗案内同様に客室タイプで優先乗船制度が必要かと思われす。

（スイートルーム・デラックスルームの乗客数がわかっているの、座席を確保しておくことが良い）

30周年記念イベントが急遽追加されたためかエントランスに「30周年記念のパネル」が設置され記念撮影ができると思っていたが、何もなかったのは残念であった。

今回スイートルームを予約したので、30周年記念ラベルのシャンパンがサービスされるかと楽しみにしていたが、これも残念ながらもなし。しかもダイニングでもなし。

もしかしたら、神戸発着30周年記念クルーズ用に取り置きされているのでは。

出港前に避難訓練が行われたが、救命胴衣は客室から持ち出さず乗船証を持って参加し、航空機搭乗同様スタッフがデモンストレーションを観る方式であった。一度着用すると消毒する必要があるためか。

その後、出港式は行われず名古屋港を静かに離れ、高松港に向かった。夕食は春日、瑞穂とも1回制で18時から、クルーズ中ドレスコードは全てカジュアルで、少々気が楽であった。ダイニングのスタッフはマスクとフェースシールドを着用し、入口で検温があり、着席するとテーブルのQRコードと乗船証のQRコードを読取記録される。朝食・昼食・ナイトスナック時も同様に行われていた。

夜はにつぼん丸ハウスのアスール☆プラ☆ブティ☆によるヨーロッパ楽曲が演奏され、日本の楽曲も引き続き演奏された。

二日目は高松入港まで朝9時半から30周年記念イベントが開始され、商船三井客船山口社長と本船の改装に関してこられた渡辺デザイナーによる「改装にまつわるス

トーリトーク」がドルフィンホールで開催された。トークでは竣工時が一番美しいが見えない所の改装（発電機、冷凍庫、通信機器など）を行いながら、2017年にカーペット張替え、2020年の改装は「海の女神の復活」というコンセプトや2022年にはステートルームの改装など紹介され、進化し続ける「にっぽん丸」を印象が残った。社長から新造船については明確な発言はなかったが、進化の次はいつかあるような印象であった。また、船の空調について客室は毎時6回外気換気があり、公室はUV殺菌装置やイオン発生装置を導入し循環型の換気を行っており、客室以外のトイレの手洗い用水栓は自動式で蛇口を触れないように変更し、感染予防対策を行っているとも話された。今後のクルーズは集団型イベントから分散型イベントになっていく傾向になるのでは。

興味深い話で「にっぽん丸」の船名由来は「あるぜんちな丸」（初代にっぽん丸）が青年の船事業として東南アジア諸国を巡る際に「にっぽん丸」としたことと「ふじ丸」は富士山の「ふじ」ではなく、花のふじ（藤）からであったことが紹介された。（会員の方でご存知かとは思いますが）

また、デザイナー渡辺さんから、和辻博士の著書「海」がデザイン上大変参考になったことやカーペットデザインの考えなど興味深い話も聴くことができた。

トークの始まる前にはスポーツデッキで「讃岐の島々を見るイベント」が開催され瀬戸内島々を解説付きで見ることができたが、残念ながらわずか10名しか来られていなかった。11時高松港到着時には岸壁で鉄砲隊による歓迎があり、急遽入港が決まったためか、段取りがややぎこちなかった。その後バス3台に分かれ、こんぴらさん参拝に向かった。コロナ禍であり平日であるためかこんぴらさんは閑散としていた。夜は30周年記念フルコースディナーで華やかな食事を楽しんだ。

三日目最終日は「にっぽん丸ショーケース」シェフのデモンストレーションとして中山総料理長による本日「瑞穂」で供される昼食「にっぽん丸特製コロッケ」の実演が行われた。

その後6階ラウンジ「海」でスイートルームやデラックスルームのベッドを飾る「花毛布」を折る実演が開催された。ばら、波、かたつむりなど現物展示されていた。

30周年記念イベントの最後をかざる村上寛船長と川野恵一郎ゼネラルマネジャーの「にっぽん丸四方山話」トークイベントが行われた。東京クルーズと同様かも知れないが、香港返還日に合わせたクルーズ話、ヨット救助話、西之島の噴火遭遇した時の話などがあった。

最終日に3つの大きなイベントが開催され、クルーズはゆったりして過ごすものと思っていたが、忙しく過ごすことになった。

新型コロナウイルスが収束し、国内外へのクルーズを気兼ねなくできる日が来ることが待ち遠しいです。